



今月の Lung Lung Times.69号は、異動挨拶 & 新任医師紹介のダイジェスト版でお送り致します。

4月から松阪市民病院呼吸器センターに新しく3人の医師が加わり、呼吸器外科・医師の渡邊が三重中央医療センターへ異動することとなりました。新しい呼吸器センターを今後ともよろしくお願い申し上げます。

呼吸器外科・渡邊 文亮 先生、ありがとうございました！



拝啓

春暖の候、松阪市民ならびに松阪市民病院の職員の方々に於かれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと渡邊文亮は、このたびの異動により4月1日より三重中央医療センター勤務を命ぜられました。

わたくしは平成9年に三重大学を卒業後、10年間の三重大学病院の勤務の後に三重中央医療センター、伊勢赤十字病院そして松阪市民病院と勤務し医師として22年目を迎える年齢となりました。

松阪市民病院では三重県初の呼吸器センターとして畑地治センター長の元呼吸器外科医として勤務させて頂き、大変有意義な仕事をさせていただきました。

ひとえに松阪市民病院に勤務されている他科医師ならびに他職種の方々に格別なご厚情を賜ったことよるところと感謝しています。

わたくしの好きな言葉に江戸時代の儒学者の熊沢番山の「憂きことのなほこの上につもれかし限りある身の力ためさん」があります。

大洪水とそれに続く飢饉に対して心が折れることなく治水、飢饉対策と手腕を発揮していることは異動を繰り返す自分に重ね奮起しようと感じています。

新任地におきましても精励いたす所存ですが、まずは御礼を申し上げます。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。まずは略儀ながらお礼かたがたご挨拶申し上げます。

敬具



呼吸器外科・阪口 全宏 先生



平成31年4月1日より呼吸器センター・呼吸器外科にて勤務させていただくことになりました阪口全宏と申します。

平成元年に現近畿中央呼吸器センター(堺市)で研修をさせていただいて以来、平成時代まるごと、ちょうど30年間呼吸器外科領域で研鑽させていただきました。折しも改元の今春、以前からそのエネルギッシュな様子に圧倒されておりました呼吸器センターの一員に加えていただき、身の引き締まる思いでございます。

マラソンでいえば最後のスパート区間にさしかかった私の呼吸器外科医人生ですが、これまでのご恩に報いられますよう微力ながら頑張る所存でございます。どうぞよろしくご指導・ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

呼吸器外科・樽川 智人 先生



平成31年4月1日より呼吸器外科にて勤務させていただくことになりました樽川智人(たるかわ ともひと)と申します。

平成11年に愛知医科大学を卒業し、以後三重大学病院、松阪中央総合病院、国立がん研究センター、三重中央医療センターで呼吸器外科として勤務しておりました。

松阪市民病院呼吸器センターには、県内外を問わず、多数の肺癌等の呼吸器疾患を患った方々が受診されており、手術を含め外科的に治療の一旦を担えれば幸いです。よろしく願いいたします。

呼吸器内科・藤原 研太郎 先生



平成31年4月より赴任致しました藤原研太郎と申します。三重大学を卒業後、県内総合病院で6年間勤務し平成23年より三重大学病院で呼吸器内科診療に従事致しました。同院では診療と並行して、三重大学免疫学教室で難治性呼吸器疾患モデル動物を用いた病態解明研究に関わる機会を得ました。浅学な私ではありましたが同教室のガバザ・エステバン教授から、既存の枠組みにとらわれず、常に新しい視点で真摯に事象を捉える姿勢を御指導頂きました。

この度、南勢地区、県内は元より県外をも越えて名を馳せる松阪市民病院呼吸器センターの一員となれる事を嬉しく思います。少しでも当センターの飛躍に寄与できるように精進致します。どうぞよろしく願い申し上げます。